

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Yくまーず未来 三河安城		
○保護者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的視点・支援経験のある職員で対応している。	幅広い発達支援の経験を元に、医療的または障害特性を踏まえた対応を伝えている。	継続・状況把握が支援の目的にならないよう、保護者の要望、訪問先からの情報を元に必要な支援を検討していく。
2	訪問先、保護者の要望に合わせて丁寧に訪問時の様子を伝える。	支援記録の他、報告書や電話で丁寧にやりとりをして伝えるように気をつけている。 訪問先の事情にも配慮して、関わり方・支援の方法について伝えるようにしている。	必要な情報をより分かりやすく伝えられるような書式を準備したり、やりとりにかかる時間の短縮など、効率の良い方法を検討していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家庭での取り組みや訪問先と保護者で連携を取れるようになるための支援	保護者と訪問先の仲介のような立場になることもある。 徐々に仲介がなくてもやりとりをして子どものことを相談し合える関係づくりを手伝う立場ということを意識して関わりたい。	必要に応じて訪問先、保護者を含めた担当者会議など3者で話をする機会を設けられると良い。 時間や手間などの負担となる可能性があるため、別のやり方も検討していく。
2	訪問先が事業を理解するための取り組み	特に年度変わりなどで引き継ぎされずに訪問支援が継続されたり、訪問の目的が共有できていないケースが見られる。	訪問ごとに目的の確認を行う。 訪問員からの取り組みだけでなく、保護者や相談支援員などとも協力して事業の理解を促していきたい。
3	訪問員の育成	訪問先により環境が様々であり、普段の訪問先での子どもの姿を知っているわけではなく、また、教育や保育の専門家である訪問先の先生方に、発達支援の専門的立場で伝えるという特性上、必要とされる知識や経験が多い。育成に時間がかかり、また、適した職員の確保が難しい。	日常の業務の中で経験を積みながら、研修や実践を重ねて時間をかけて育成していく必要がある。